

## ベトナムのお茶事情

石川 幸

## 〈はじめに〉

ベトナムという国名を聞いた際、日本人が想起するものとしてアオザイ（民族衣装）、ベトナム戦争、フォー（麺料理）、生春巻き、ベトナムコーヒーといったものが挙げられるかと思えます。かくいう私も、ベトナムに来る前は上記の様なものをイメージしていました。しかし、実際にベトナムに来てみますと、まだまだ私達日本人の知らない特徴も多く存在することに気付かされました。その中で今回、取り上げるのは「お茶」です。

意外に知られていないことですが、実はベトナムは世界有数のお茶大国でもあります。2016年のお茶の生産量は世界6位と非常に興味深いデータも存在します。

1位	中国	4位	スリランカ
2位	インド	5位	トルコ
3位	ケニア	6位	ベトナム

また、これらのお茶は単純にベトナム国内での消費だけに留まらず、その生産量の70%以上を輸出しており、文化だけでなく産業的にも非常に重要な役割を担っている事が伺えます。

## 〈歴史〉

ベトナム語でお茶を意味する言葉は「Tra」とされており、日本と同じチャーと発音します。ベトナムのお茶の歴史は古く、1,000年以上前にすでにベトナム中部から北部にかけて栽培がされている事が確認されています。対してコーヒーは、20世紀初頭にフランスが持ち込んだとされており、お茶と比較しても非常に歴史が浅いことが分かります。このようにお茶はベトナムの歴史とも根強く関係しているため、ベトナムの古都フエ（日本で言うところの京都）を中心に、王宮時代の作法を基とした宮廷茶道が存在しており、今なお、現代のベトナム人に親しまれています。

## 〈近年のお茶市場〉

ホーチミン市内を見渡すと、お茶を主力とした店舗が多く見受けられます。ベトナム系のホットアンドコールド（HOT & COLD）やホアフンユン（Hoa huong duong）、台湾系のゴンチャ Gong cha）やコイティー（Koi The）、アングルティー（Uncle Tea）などのチェーン展開を行う大手ショップの他、個人運営の露天商などがホーチミン市内では当たり前のお茶の光景として見受けられます。チェーン店のおおよそのお茶の価格帯は 35,000 ドンから 70,000 ドン（約 175 円から約 350 円）となっており、場所によっては人気のため長蛇の列をなしています。現在では上述のような伝統的な宮廷茶道より、甘いタピオカミルクティーが若者を中心に好まれており、上記チェーン店の主力商品になっています。

また、興味深いことにコーヒーショップなどでコーヒーを注文すると、大半のショップで無料の緑茶が提供されます。濃厚なベトナムコーヒーを飲んだ後は口の中にいつまでもコーヒー豆の味や匂いが残るため、香りが高いベトナムのお茶は正に口直しに最適です。

## 〈今後の展望〉

現在もベトナムでは輸出産業としての茶葉の存在を重要な物として捉えています。しかし、まだまだ技術が追い付かないためか、なかなか効率的な生産方法を確立できていない状況にあるようです。しかし、将来的には、技術が進歩するとみられていますので、ベトナムのお茶が外国、ひいては日本でも一般的になる日が来るかもしれません。